

目次

- I 問題の所在
- II 既存研究
- III 研究目的・方法
- IV 調査対象地概略
- V 調査結果
- VI 考察
- VII まとめ
- VIII 参考文献

I 問題の所在

- ・少子化による子供の数の減少.
- ・都市部への人口移動.

→ **学校統廃合が進む**

・小中学生の人口推移は1981年をピークに2008年はその6割まで減少している一方、学校数・教員数は全体の1割程度の減少にとどまっている.

→ 「**学校規模や配置が適切でないといわれることがある**」と指摘(安田 2009).

I 問題の所在

- ・学校規模の適正化に関する基本的な考え方.

〈教育〉

- 一定規模の児童生徒集団
- 専門性
- バランスのとれた教員配置

〈地域コミュニティ〉

- 防災
- 保育
- 地域の交流

II 既存研究

〈統廃合が抱える問題〉

- ・斎尾(2008) 廃校プロセスと廃校舎利用.
- ・西田(1986) 休廃校地域の変容.

→ **地域コミュニティに関する問題**

藤本(1974)

- ・子供のパーソナリティ形成において遊びは家庭生活、学校生活と並び重要なものである。子供の行動範囲は校区によって限定される傾向があるため、**地理的条件が子供のパーソナリティ形成に大きな影響を与える。**

II 既存研究

村田(ほか)(1993)

都心部での小学校統廃合による児童の屋外行動への影響に関する研究.

→ **統廃合によって遊び行動の広がりや遊び集団の人数の拡大がみられた。**

小林(2011) 学校統廃合による環境移行下の学校適応に関する研究

→ **学校の構成人数は増えるも選択された遊び集団の構成人数が減少している。**

Ⅲ 研究目的・方法

〈研究目的〉

富山県氷見市にある湖南小学校を事例に、学校統廃合による学区の拡大が子供の遊び空間に及ぼす影響を検討する。

〈調査期間〉

- ・小学生：2017年11月13,16,17,27,29日、12月1日 計6日間
- ・卒業生：2017年12月17日

〈調査方法〉

- ・聞き取り調査



Ⅲ 研究目的・方法



〈調査対象者〉

・氷見市立湖南小学校に通う小学4年生から6年生までの児童 41名

4年生 男子2名 女子15名 計17名
5年生 男子7名 女子8名 計15名
6年生 男子6名 女子3名 計9名

・統廃合前の湖南小学校卒業生

男子4名 女子3名 計7名



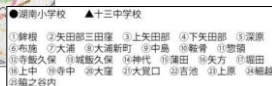
Ⅳ 対象地域概略

富山県氷見市 湖南小学校学区



2011年
仏生寺小学校が廃校

湖南小学校に統合
新湖南小学校が誕生



Ⅴ 調査結果

〈卒業生〉

- ①放課後によく遊びに行った場所
→友達の家もしくは自分の家、公園
- ②誰と遊んでいたか
→同じ地区に住む同級生、近隣に住む友達
- ③遊び集団の人数・移動手段
→2~5人程度、徒歩・自転車で移動
- ④友達になったきっかけ
→出身保育園が同じであった
- ⑤休日の遊びについて
→テレビゲームやカードゲームで遊ぶ

Ⅴ 調査結果

〈小学生〉

- ①よく遊びに行く場所
→友達の家もしくは自分の家
- ②誰とよく遊ぶか
→同じ地区に住む同級生、家で一人で過ごす
- ③移動手段
→自家用車で親による送迎
- ④友達になったきっかけ
→出身保育園が同じ
- ⑤平日と休日の遊びについて
→休日は家で過ごしたり、習い事へ通ったりする

Ⅵ 考察

〈子供の遊び行動の現状〉

- ・遊び空間が児童の居住区内、近隣地区で収まっている。
- ・学区の広がりによってクラスメイトが増え、学校内で遊んでいるが、この遊びが放課後まで延長されることはない。
- ・習い事に時間をかける児童が多く、友達と遊ぶこと自体少ない。

遊び行動の回数が少ない

VI 考察

〈子供の遊び行動の現状〉

- ・ 自宅で過ごす児童が多い.
- ・ 外遊びをする児童が少ない.

氷見市全体的に放課後は自宅で過ごす児童が多い.
一方、保護者は安心して外遊びができる環境を求めている

2014年「氷見市の子ども・子育て支援に関するニーズ調査報告書」より

VI 考察

〈小学校統廃合による遊び空間への影響〉

氷見市内に統廃合予定の小学校がある
→複式学級の解消につながり、学校構成人数も増えることで児童の交友関係は広がる

学校区が拡大しすぎたあまり、放課後に友達と遊ぶ際に距離が制約となって放課後の遊び行動が制限される可能性がある。
遊び仲間は近所に住む友達に限られ、児童が少ない地域では家で一人で過ごすことが多くなることが予測される。

VII まとめ

- ・ 今回の調査から、学校区の拡大が子供の遊び空間の拡大に繋がったことは確認できなかった。
- ・ 習い事に時間を割く児童が多く、放課後に友達と遊ぶこと自体が困難である。

習い事にかかる時間や通学距離、友達の家までの距離が制約となり、とくに児童数が少ない地域では遊び空間が拡大せず縮小する可能性が考えられる。



VIII 参考文献



- 大西宏治1998. 岐阜県羽島市における子どもの生活空間の世代間変化. 地理学評論71A(9): 679-701.
大西宏治2000. 子どもの地理学—その成果と課題—. 人文地理52(2): 149-172.
岡本奈々2017. 地図の表現の違いによる場所特定の影響について—能登島小学校児童を事例に—. 富山大学人文学部人文地理学研究室人文地理学実習3(2016年度)報告書: 27-33.
小伊藤蓮希子・岩田智子2011. 小学校区にみる子どもの遊び行動制限と地域差—大坂市内の小学校2年生を対象として—. 日本家政学会誌62(12): 47-58.
小林小夜子2011. 小学校の統廃合による環境移行下の学校適応に関する研究Ⅲ—統廃合前年度末と統廃合後1年間の遊び仲間の人数の変化—. 日本教育心理学会発表論文集53.
斎尾直子2008. 公立小中学校の統廃合プロセスと後校舎利用活用に関する研究. 日本建築学会計画系論文集73(627): 1001-1006.
西田博高1986. 奥吉野山地における小学校の休業校地域の変容. 人文地理36(6): 49-61.
氷見市史編修委員会1963. 『氷見市史』氷見市役所.
氷見市ホームページ<http://www.city.himi.toyama.jp/>(最終閲覧日: 2018年1月15日)
藤永豪2001. 山間地域における子どもの遊び空間の変容—長野県四賀村保福寺町地区の事例—. 新地理409-1.
藤本浩之輔1974. 子どもの生活における地域社会. 教育社会学研究29: 4-17.
村田昌弥・中村政・木下勇1993. 都心部での小学校統廃合による児童の屋外行動への影響に関する研究. 造園雑誌56: 271-276.
安田隆子2009. 学校統廃合—公立小中学校に係る諸問題—. 調査と情報640: 1-10.
若林敬子2008. 学校統廃合と人口問題. 教育社会学研究62: 27-42.